

研修Ⅱ 小豆 子どもの関わりを促す支援の工夫～目的意識のある言語活動の中で～
『名前を見てちょうだい』（東京書籍2下）を中心とした
ファンタジー教材の学習

1 提案の概要

(1) 国語科の内容から

- ① ファンタジーの特徴
- ② ファンタジーを学習する意義
- ③ ファンタジーの楽しみ方の視点
- ④ 楽しみ方に着目できる発達段階
- ⑤ ファンタジーで付けたい力
- ⑥ ファンタジーの授業アイデア例

(2) 子どもの関わりを促す支援の工夫～アクティブ・ラーナー育成の視点から～

- ① アクティブ・ラーニングの必要性
- ② 司会団とは
- ③ 司会団を立てたアクティブ・ラーニングの工夫とよさ

(3) ファンタジーを楽しんで読む力を付ける授業作り

2 具体的な実践（司会団を中心とした模擬授業）

単元名 第2学年「ファンタジーのおもしろいところを見つけてしょうかいしよう」

(1) 単元のねらい

- ① ファンタジーでの不思議な世界での出来事のおもしろさを、観点に沿って見つけられるようになること。
- ② ジャンルを意識して読む、おもしろさを見つけながら読むなど楽しんで読むことを実感できること。
- ③ 身につけたファンタジーの楽しみ方を、汎用的に生かせるようになること。

(2) 授業の実際と工夫

- ① 児童がよく知っているお話を用いて「ファンタジー」を理解させる。
司会はフロアの児童の意見をまとめて復唱し、確認する。板書は意見を板書するが、意図的に板書したい場合は、教師が支援する。
- ② 目的意識を明確にもたせる。
教師は、児童が楽しそう、やってみたいと思えるように誘う。
常に、児童に問い返し、自分たちで学習を進めているんだという意識をもたせるようにする。
- ③ できるようになりたいことを児童と共に考え、学習計画を立てる。
一人→グループ交流→全体交流の流れで考えを練り合う。
- ④ 教科書教材でおもしろさの観点を見つける。
理由に観点につながる言葉が入ってくるので、必ず理由を付けるようにする。
教師は、汎用性のあるものへ引き上げていくようにする。出てこないところや、困っているところについては教師の出番として観点を出したり、整理したりする。
- ⑤ 他の教材で観点に沿っておもしろさを見つけていく。終末で、他のファンタジー作品を読み、付けたい力を生かして一人でおもしろいところを見つけ紹介する。

3 授業の工夫とよさ

- (1) 司会団を中心に授業を進める→自分たちで学んでいるという意識を高められる。
輪番で進めるので、児童の活躍の場が保障される。
学び方の手順を知ることができる。
- (2) 役割分担を明確にする→責任を果たそうとする態度が身に付く。
課題解決に参加しているという意識をもたせることができる。
- (3) 問い返し（復唱）をする→考えを共有できる。
自分の考えとの相違点がわかり、理解を深めることができる。
- (4) 子どもたちで学習計画を立てる→子どもたちの中で付けたい力を継続させられる。
自分たちで学んでいる意識を高める。
毎時間の課題や学習活動を意識できる。
単元全体の見通しを持って課題解決できる。
- (5) 交流のめあてを共有する→同じゴールに向かった学び合いができる。
- (6) 既習事項を掲示する→学びを進んで他の学習に生かす態度を身につける。
- (7) 既習と未習を明確にする→何を知っていて何ができるようになりたいのかが分かり、
学びを焦点化できる。

※参考資料「自学力育成プログラム」井上一郎・池永啓子 編著